

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2009年47週 (11月3週 11/16~11/22)

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

新型インフルエンザ(A/H1N1)

集団かぜの発生について

RSウイルス感染症

定点医療機関コメント

インフルエンザ、感染性胃腸炎、マイコプラズマ等
全数把握感染症発生状況 ()内は件数。

結核(25)、腸管出血性大腸菌感染症(1)、つつが
虫病(1)、デング熱(1)、レジオネラ症(2)、急性
脳炎(1)、後天性免疫不全症候群(3)、梅毒(1)

名古屋市感染症情報(11月前半)

WHO 疫学週報抄訳

2009年10月9日(84巻41号)

インフルエンザワクチン 2010年南半球流行期用
WHO 推奨株

インフルエンザA(H5N1)抗原性、遺伝学的特性と
候補ワクチン

2009年10月16日(84巻42号)

リンパ系フィラリア症世界排除計画

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf> をご覧ください。

トピックス

新型インフルエンザ(A/H1N1)

インフルエンザサーベイランス(図1) [警報発令中]

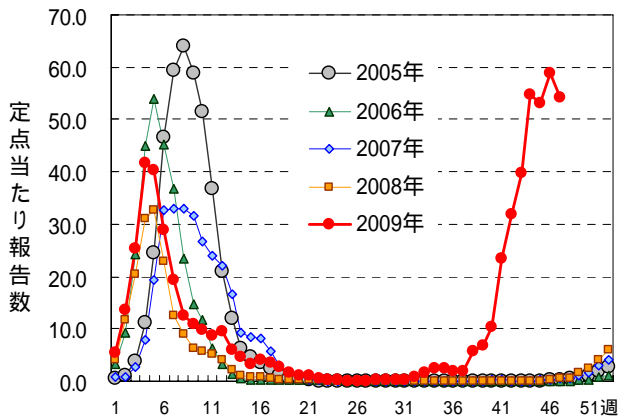


図1 インフルエンザ定点当たり報告数の推移(2009年31週から新型インフルエンザ(A/H1N1)を合わせた報告)

愛知県全体の47週の定点当たり報告数は54.2、前週比0.9倍(総数11,447人 10,563人)です。

【参考ページ】

1. “インフルエンザ”警報を発令します!(10月8日・健康対策課発表)

<http://www.pref.aichi.jp/0000027831.html>

2. 保健所別・定点医療機関当たりのインフルエンザ報告数マップ

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/influ_map_new.html

3. 新型インフルエンザ(インフルエンザA/H1N1)に関する情報(ネットあいち)

<http://www.pref.aichi.jp/0000024466.html>

集団かぜの発生について(健康対策課発表)

	発表日	管轄保健所	ネットあいち URL
第53報	11月19日	一宮、瀬戸、半田、春日井、豊川、津島、西尾、新城、知多、師勝、衣浦東部	http://www.pref.aichi.jp/0000028622.html
第54報	11月20日	一宮、瀬戸、半田、春日井、豊川、津島、西尾、江南、新城、知多、師勝、衣浦東部	http://www.pref.aichi.jp/0000028669.html
第55報	11月24日	第54報と同じ	http://www.pref.aichi.jp/0000028727.html
第56報	11月25日	第53報と同じ	http://www.pref.aichi.jp/0000028744.html

RSウイルス感染症(図2)

47週の定点当たり報告数は0.30、前週比1.3倍(41人 55人)です。

【参考ページ】

RSウイルス感染症

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/rs.html>

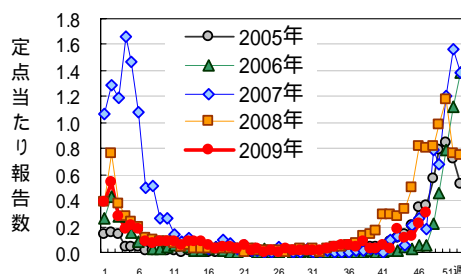
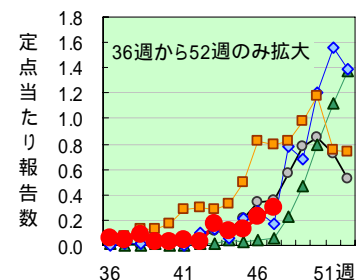


図2 RSウイルス感染症



定点医療機関コメント(名古屋市除く)

尾張西部地区

インフルエンザ 小学生が多い。
10月と11月に各々A型インフルエンザに罹患した例あり。

【一宮市 あさのこどもクリニック】

インフルエンザA型 9名
マイコプラズマ感染症8歳、4歳男2名

【一宮市 後藤小児科】

インフルエンザA型陽性 68名

【一宮市 一宮市立市民病院】

マイコプラズマ肺炎 19歳女、5歳女

【稲沢市 野村整形外科】

インフルエンザA型陽性例36名、その他疑い例多数

【稲沢市 こどものお医者さんおがわクリニック】

RS様の喉頭炎が見られます。

ノロ様の胃腸炎も見られます。

インフルエンザは2/3くらいに減りました。

【犬山市 武内医院】

インフルエンザA 119名(幼児も増加しています。)

溶連菌感染症、感染性胃腸炎が少し増加しています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

A型インフルエンザ111例と前週より少し減少。

RSウイルス感染症12例と増加中。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

A型インフルエンザ 39名

B型インフルエンザ 1名

A型とB型の混合感染が2名いました。

【北名古屋市 田中クリニック】

インフルエンザA 33名、小中学生に多発しています。

【清須市 丹羽医院】

インフルエンザA型82名。

【津島市 医療法人参育会加藤医院】

尾張東部地区

B型インフルエンザ6歳女。
相変わらずA型は多くみられます。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

インフルエンザ34名(A型)。

その他溶連菌感染症、突発疹。

成人の水痘(34歳)1例あり。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

A型インフルエンザ8名。

【豊明市 豊明団地診療所】

A型インフルエンザ60例。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

当院近辺ではインフルエンザはかなり減少しております。

【春日井市 かがわこどもクリニック】

乳児例はいずれも軽症に経過しています。

【小牧市 志水こどもクリニック】

インフルエンザA型男33名、女22名出ています。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

この1週間でのインフルエンザの診断は206名で小児は141名でした。2週連続で減少しています。

【小牧市 小牧市民病院】

インフルエンザA 33名

【半田市 医療法人林医院】

インフルエンザA型81名

【半田市 半田市立半田病院】

A型 137名 B型 5名

【半田市 医療法人敬おっかわこどもクリニック】

A型インフルエンザ 36名

B型インフルエンザ 1名

【南知多町 医療法人大岩医院】

インフルエンザA 41名。

水痘目立ちます。

感染性胃腸炎も少し増えたようです。

カンピロバクター+病原大腸菌O128(1名)

【東海市 もしもしこどもクリニック】

ロタウイルス腸炎 4歳女

インフルエンザA型多い。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

インフルエンザ A 36 名
インフルエンザ A B 未確定 4 名
E. coli(O25) 4 歳男
E. coli(O6) 1 歳男
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
インフルエンザ 陽性 A 型 15 名
【豊田市 厚生連足助病院】
インフルエンザ 119 名 すべて A 型
【岡崎市 医療法人深田小児科】
インフルエンザは、すべて A 型です。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
インフルエンザ感染症多いです(全て A 型)。
その他は特記すべきことはありません。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
インフルエンザ B 型 11 歳男
1 歳男 病原性大腸菌 O1(+) VT(-)
インフルエンザ A 型 71 名
【岡崎市 にいのみ小児科】
12 歳女 病原大腸菌 O74
インフルエンザは全て A 型(痙攣を起こす患者が増えています)
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

インフルエンザ 49 名全て A 型。相変わらず小児(幼児~中学生徒)が多いです。
【岡崎市 粟屋医院】
インフルエンザ A 型 13 名
【岡崎市 医療法人永坂内科医院】
すべて A 型 家族内感染(保護者への感染が目立っていました)。
【岡崎市 村山医院】
すべて A 型。
【岡崎市 医療法人志貴こどもクリニック】
インフルエンザは引き続き流行中。
【碧南市 永井小児クリニック】
マイコ気管支炎 3 名(7、7、4 歳)
インフルエンザは A 型
【刈谷市 田和小児科医院】
インフルエンザ 72 名
【知立市 宮谷クリニック】
インフルエンザ全て A 型 82 人 やや減少傾向。
【西尾市 山岸クリニック】
インフルエンザは、全て A 型です。
【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

インフルエンザ流行中、やや少なくなりました。
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
インフルエンザ A 増加中(先週比 1.3 倍)、
B 型 3 名いました。
【豊橋市 医療法人野村小児科】
インフルエンザ A 型 57 名
【豊橋市 おだかの医院】
インフルエンザ A 型 159 名(1 歳から 50 歳、
うち 10 代が 70 名)
【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】

インフルエンザすべて A(+)です。
【豊川市 豊川市民病院】
E. coli O1 女 0 歳
インフルエンザ A 型 147 名で前週よりも多い。
B 型も 1 名あり。
【豊川市 ささき小児科】
インフル(B)1 名
【豊川市 蒲郡市民病院】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2009年11月25日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedeki_jun080512.pdf

結核（二類感染症）

報告保健所	2009年47週報告数			2009年累計(1～47週)		
	総数	喀痰塗抹検査陽性者数再掲	無症状病原体保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査陽性者数再掲	無症状病原体保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	12	4	5	757	214	124
豊田市	1	1		72	18	17
豊橋市	1		1	54	14	5
岡崎市	1	1		43	15	7
一宮	2			109	31	18
瀬戸	1			137	42	21
半田	1	1		59	15	10
春日井				96	28	15
豊川				49	20	8
津島	1	1		86	20	7
西尾				39	8	7
江南	2		1	91	21	20
新城				13	5	2
知多	2	1	1	85	26	19
師勝				41	18	2
衣浦東部	1			100	29	18
合計	25	9	8	1,831	524	300

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	11歳	男	11/12	11/12	11/16	O26、VT1(+)

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

つつが虫病（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	名古屋市	66歳	男	岐阜県 下呂

デング熱（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	知多	34歳	女	デング熱	フィリピン

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	豊田市	56歳	男	肺炎型	国内
2	一宮	73歳	男	肺炎型	国内

急性脳炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病原体	推定感染地域
1	春日井	14歳	女	アデノウイルス3型	不明

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	35歳	男	AIDS	性的接触	国内
2	名古屋市	53歳	男	無症候性キャリア	不明	不明
3	瀬戸	51歳	男	AIDS	性的接触	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	瀬戸	51歳	男	早期顕症	性的接触	国内

このまとめを作っております愛知県衛研と道路を隔てた公園の公孫樹が小春日和に照らされて黄色に輝いています。かなり冷え込むようになって出勤のときにコートをどうしようか、考えてしまったりしています。いつも貴重な情報を有難うございます。体調を崩して入院したりして、仕事が溜まってしまいました。すこしお休みをいただいております。11月前半のまとめをお送りします。

名鉄病院福田先生からはインフルエンザA型が非常に多く、勢いは衰えておらず入院の半数を占め、PCRですべて新型、ウイルス性胃腸炎が増加、非口ウイルスで嘔吐症状主体、RSウイルス感染症散発、入院では新型インフルエンザと感染性胃腸炎、マイコプラズマによる気管支炎・肺炎、RSウイルス感染症が目立つ、第二日赤岩佐先生からはインフルエンザA(H1N1)の入院がまだ目立つ、三菱病院入山先生からは外来ではインフルエンザA型20名、感染性胃腸炎2名(病原性大腸菌O153、O25)A群溶連菌感染症咽頭炎1名、伝染性紅斑1名(肝障害の合併あり)、入院では気管支炎～肺炎4名、A型インフルエンザで気管支肺炎～気管支炎合併3名、中部労災病院山田先生からは外来では新型インフルエンザA感染、1回だけ高熱の感冒、仮性クループ、溶連菌感染症、が目立ち水痘とムンプス各2例、入院ではインフルエンザで経口摂取不良児、肺炎、インフルエンザ以外の感染誘発喘息発作が目立つ、とのお手紙でした。有難うございました。

2009年10月9日(84巻41号) <http://www.who.int/wer/2009/wer8441/en/index.html>

インフルエンザワクチンWHO推奨株。2010年南半球冬期用。

- (1)09年2月～9月、世界のインフルエンザ流行:最初は従来の季節性インフルエンザAH1、AH3、B型主体であり、小規模発生主体であったのが5月以降A(H1N1)パンデミックウイルス(H1pdm)分離が増加、主体となっている(月別、国別分離ウイルスの一覧表あり)。
- (2)季節性インフルエンザ:北半球では09年2月から流行、3～4月に減少、欧州ではA(H3N2)、日本、北米ではA(H1N1)とB。混合流行した国が多い。
- (3)パンデミックA(H1N1)インフルエンザ:4月に北米で始まった流行は7～8月には全世界で従来の季節性インフルエンザと入れ替わって大流行。8月に少し減った東南アジアなどでもその後再増加、現在に至っている。
- (4)A(H5N1):09年2月1日～9月21日のA(H5N1)人感染例37例、死亡5例。中国、エジプト、ベトナム、いずれも鶏舎で鶏の大量死に伴い密接接触例。03年12月以降440例のH5感染確定例で死亡262例(15カ国)。まだ人から人への伝播のエビデンスは得られていない。
- (5)最近の分離株は抗原性・遺伝変異をおこしているか:免疫フェレットを用いた交叉HI反応でほとんど抗原変異はなく、HA、NAの遺伝子解析から遺伝子変異も殆ど起っていない。
- (6)A(H1N1)ウイルス:上述のように急速に従来のH1N1ウイルスから新型H1N1主体に分離株は変わってきている。
- (7)最近のA(H3N2)ウイルス:フェレット免疫血清による交叉HI反応から長い間現行ワクチン株A/プリズペン/10/07やA/ウルグアイ/716/07と類似していたが、3月以降の分離株は抗原的にも遺伝子解析上もA/パース/16/09やA/香港/1985/2009に類似。
- (8)B型ウイルス:現行ワクチン株のB/ビクトリア/2/87、B/山形/16/88類縁株の分離が世界的に持続中。
- (9)抗ウイルス剤耐性株: NA阻害剤:ほとんどのA(H1N1pdm)はタミフル感受性、全てリレンザ感受性。タミフル耐性はA(H3N2)とB型では見つかっておらず、季節性インフルエンザ

A(H1N1)ウイルスには多い。アマンタジンと類縁薬剤：すべての A(H1N1pdm)、大多数の A(H3N2)は耐性。

- (10) 現行不活化ワクチンの研究：A / ブリスベーン / 59 / 07(H1N1) + A / ウルグアイ / 716 / 07 (H3N2) + B / ブリスベーン / 60 / 08 もしくは B / フロリダ / 4 / 06 の 3 混ワクチンの青壮年や高齢者の接種後 HI 抗体は A(H1N1)pdm と無関係であり、A / カリフォルニア / 7 / 09 類縁抗原を含むワクチンが最近の分離株の多くに抗体活性を示していた。
- (11) 2010 年流行期ワクチン組成 WHO 推奨株：A / カリフォルニア / 7 / 09 (H1N1) + A / パース / 16 / 09(H3N2) + B / ブリスベーン / 60 / 08、ないしそれぞれの類縁株。

インフルエンザ A (H5N1)ウイルスと A(H5N1)ワクチン候補ウイルスの抗原・遺伝子特性
最近の H5N1 候補ワクチン臨床試験結果：

http://www.who.int/vaccine_research/diseases/influenza/flu_trials_tables/en/index.html 参照。

- (1) 09 年 9 月の状況：鳥と人の H5N1 感染はいくつかの国で常在、抗原性と遺伝的解析が進められている。
- (2) 09 年 2~9 月における H5N1 流行：アフリカとアジアで分離。人の感染は中国、エジプト、ベトナムから WHO に報告があり、鳥からも報告されている。
- (3) 抗原的、遺伝的特性：いくつかの進化群（クレード）に分類される。クレード 2.2 ウイルスは Bangladesh で 08 年以来鳥から分離、クレード 2.2.1 ウイルスがエジプトの鶏舎で大流行、人に散発、クレード 2.3.2 ウイルスが中国、香港、モンゴル、シベリアの鳥類、クレード 2.3.4 ウイルスが香港、ベトナム、ラオスの鳥類と人から分離 [A(H5N1)のクレード全体の系統樹あり]。香港の分離株は前年と類似。抗原的にはワクチン候補株の A / chicken / 香港 / AP156 / 08 と類似。ベトナムの分離株は遺伝的に多様で、これらのウイルスは抗原的にはワクチン候補株の A / duck / Laos / 3295 / 06 と類似していた。
- (4) A(H5N1)ワクチン候補ウイルス：これまでの結果からは統一推奨株はなく、各地区で検討することが勧められる（入手可能な H5N1 候補ワクチン一覧表あり）。WHO が提案しているのは A / chicken / 香港 / AP156 / 08 と A / chicken / Viet Nam / NCDV-03 / 08。

WHO 感染症ウェブサイトを閲覧。

2009 年 10 月 16 日（84 巻 42 号）<http://www.who.int/wer/2009/wer8442/en/index.html>

リンパ系フィラリア症排除世界計画。

リンパ系フィラリア症（LF）排除プログラムは 08 年においても進捗中。08 年において LF 常在国は 81 カ国のうち 66 カ国が常在地区の地図作り完成、13 カ国が作成中、2 カ国はまだ着手していない。常在国のうち、薬剤集団投与（Mass Drug Administration, MDA）は以前風土病であった 10 カ国で不必要になり、現在常在 71 カ国中 51 カ国で実施中、20 カ国では開始していない。アフリカ地域以外の MDA 必要な 37 カ国のうち 34 カ国は全国または常在地で実施、3 カ国（ニューカレドニア、パラオ、スーダン）はまだ開始していない。08 年、LF 排除世界計画は 6 億 9,500 万人を対象として MDA 実施、4 億 9,600 万人（71.38%）が投与を受けた（07 年より 5,000 万人以上減少）。東南アジア地域では 07 年より 08 年が 5,600 万人少なかった。08 年、2 億 3,200 万人を超える人々（投与者の 46%）が多剤投与（ディエチルカルマバジン、DEC+アルベンダゾールまたはイベルメクチン+アルベンダゾール）をうけた。定点観測ないしスポットチェックから得られた治療インパクトのデータから MDA 5~6 回の実施で多くの常在地域、常在国でマイクロフィラリア血症の減少が認められ、罹患率低下の公衆衛生的利益は著明である（Disability Adjusted Life Years に関する記載あり、略）。現在 27 カ国で障害者治療が実施されている（世界地図あり）。08 年における世界の国別の MDA 使用薬剤、実施施設数、履行対象人数、投薬された人数、実施率（%）の報告一覧表、WHO 地域別一覧表、就学前（1~4 歳）と学童（5~14 歳）の 08 年投与数 WHO 地域別一覧表あり。使用薬剤（DEC 単独 54%、DEC+ALB36%、IVM+ALB10%）、リスク者の地域別投与率（メコンプラスが 08 年 MDA 投与率 80%、アフリカが 20%台、など）の一覧表あり、世界地図が添えられている。以下、アフリカ地区、アメリカ地区、東地中海地区西太平洋地区の状況解説あり(略)、MDA のインパクトは大きく、MDA 5~6 回の実施が LF 排除に重要と考えられる。

愛知県感染症情報

2009年47週(2009年11月16日～2009年11月22日)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	*インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																		
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	52	17	55	10,563	6	104	517	123	10	5	94	3	6	39	0	1	0	0	11	1
総数 (名古屋市を除く)	125	112	24	37	12	49	8,834	6	67	315	96	9	4	74	1	4	30	0	1	0	0	11	0
名古屋 名古屋市	70	70	11	15	5	6	1,729		37	202	27	1	1	20	2	2	9						1
尾張 東部 瀬戸	9	9	2	3	1	2	346	2	5	16	4			3		2	4					3	
海部 津島 津島	7	7	2	2	1		665	1	5	79	5	1		3									
尾張 中部 師勝	4	4	1	1			176		1	2													
尾張 西部 一宮	16	12	3	4	1	2	802		3	19	4		2	10			2					5	
尾張 北部 春日井	9	9	2	3	1	8	918	2	5	37	11	1		8			3						
	江南	6	6	1	2	13	354		4	28	8		1	12									
知多半島 半田	6	6	1	2	1	1	591		3	5				3			3					1	
	知多	7	7	2	2	6	420		5	15	20	1		6		1	3		1				
西三河 南部 岡崎市	11	7	2	2	1		671		3	7	7			5									
	衣浦東部	13	13	2	4	1	9	1,271		16	44			6			5						
	西尾	5	5	1	2	1	336		2	11	8		1	4			2						
西三河 北部 豊田市	9	9	2	4	1	8	621		2	13	9			2	1	1	5					1	
東三河 南部 豊橋市	12	8	2	4	1		812		9	17	6	6		8								1	
	豊川	9	8	1	2	1	835	1	4	22	1			4			2						
東三河 北部 新城	2	2			1		16				1						1						

*新型インフルエンザ(A/H1N1)を合わせた報告

愛知県感染症情報

2009年47週(2009年11月16日～2009年11月22日)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	*インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
計	49	8,834	6	67	315	96	9	4	74	1	4	30	0	1	0	0	11	0
～6ヶ月	7	16			1	3			2	1								
～12ヶ月	5	70			19	7			32			1						
0歳																		
1歳	20	206	1		55	20	2		34			1						
2歳	12	257	2	2	34	21	2		6		2	4						
3歳	3	422	1	10	30	13	1	1				3					1	
4歳	2	676		11	33	11	3				1	10					2	
5歳		824		16	23	6	1	2				6						
6歳		868		9	14	5					1	1						
7歳		737	1	9	16	2		1				3		1				
8歳		785		2	10	4												
9歳		681		2	12													
5歳～9歳																	6	
10歳～14歳		1,839	1	3	18	3						1					1	
15歳～19歳		550			8													
20歳～				3	42	1												
20歳～29歳		341															1	
30歳～39歳		363																
40歳～49歳		128																
50歳～59歳		41																
60歳～69歳		18																
70歳～																		
70歳～79歳		8																
80歳以上		4																

*新型インフルエンザ(A/H1N1)を合わせた報告